

関西文化学術研究都市での最先端研究の推進について

【担当省庁】内閣府、文部科学省、国土交通省

WITH・POSTコロナ社会にふさわしいスマートシティの実現を目指す関西文化学術研究都市において、大学や研究機関等あらゆる主体が相互に交流し、イノベーションの創出に一層取り組めるよう、以下のとおり対応をお願いしたい。

○関西文化学術研究都市の基本方針として掲げる「世界の異なる文化との交流・融合による新しい文化の創造・発信」の理念に基づき、これまで培ってきた産官学住の交流文化の強みを先端技術で強化し、健康、教育等に関する社会課題の解決を図るため、**関西文化学術研究都市をスーパーシティとする特別区域に指定**

○けいはんなリサーチコンプレックス事業（平成 28 年度～令和元年度）において構築されたグローバル・イノベーション・エコシステムを基礎に、多様な大学等の力を活用し産学官共創拠点の形成を図るため、**「共創の場形成支援」における十分な予算の確保**

○理化学研究所における疾患特異的iPS細胞の利活用の促進を目的とした**iPS細胞創薬基盤開発連携拠点の機能強化**及び人とAI・ロボットが柔軟に共存する未来社会に向けた**「ガーディアンロボットプロジェクト」による分野融合研究の更なる推進のための財政的支援**

○「**関西文化学術研究都市建設促進法**」等について、これまでの本都市での研究機関整備や住宅開発の成果を活かして、**本都市の拡張も視野に、より未来の新たな住宅・都市づくりを進めるため、本都市の現状と時代潮流を踏まえた内容への改正**

○日本の伝統文化の中心地であるけいはんなの立地の特性を活かし、産学官連携により、文化財の保存・修復技術の継承や人材育成を行う**国際的な文化財保存修復センター等の拠点の整備**

【現状・課題等】

- 令和元年に国土交通省のモデル事業として採択された「スマートけいはんなプロジェクト」では、毎年度地域住民や学研都市立地機関向けに実証実験を行う等取組を進めてきた。このような成果を活かし、世界に誇れるスーパーシティとなるよう、関係市町や事業者等と連携して取組を進めている。
- 平成 28 年に科学技術振興機構に採択された「リサーチコンプレックス事業」の成果も踏まえ、世界的なイノベーション拠点創出のため、「共創の場」の形成を目指す。

京都府 の担当課	政策企画部 デジタル政策推進課(075-414-5674) 商工労働観光部 文化学術研究都市推進課(075-414-5196)
-------------	--

【国の事業等】

■概算要求

〔内閣府〕

▶ 「スーパーシティ構想」の推進 3.5億円（令和3年度予算23億円）

関係府省庁と連携し、選定都市における先端的サービスの構築、データ連携基盤の整備、事業計画の作成支援等を実施

○令和3年4月：スーパーシティ公募（本申請）

○令和3年8月：第1回専門調査会（自治体からの提案内容の検討）

○令和3年9月以降：国家戦略特区諮問会議

政令閣議決定（区域指定）

〔文部科学省〕

▶ 科学技術イノベーション・システムの構築

うち「共創の場形成支援」 175億円（令和3年度予算額137億円）

○令和2年度から大学等を中心とした「組織」対「組織」の産学官の共創によりエコシステムを構築する「共創の場形成支援プログラム」を開始

○地域の中核となる大学の振興や社会変革への対応等に向けたイノベーションの創出を目指し、「共創の場形成支援」を継続

【京都府の取組】

■スマートけいはんなプロジェクトの状況（令和3年度）

▶ ラストワンマイル対策の実証実験（令和2年度に引き続き実施）

▶ 「グリーン・サステナブルけいはんな事業」が内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省が連携して実施した「令和3年度スマートシティ関連事業」に採択された。これまでの実証実験等で蓄積したデータをサイバー空間上に取り込み、次世代の交通シナリオを検討。複合災害等もサイバー空間上で可視化し、地域住民及び自治体職員へ発信

■関西文化学術研究都市におけるスタートアップ支援

▶ グローバルスタートアップ企業の自立化に向けた「けいはんなグローバルアクセラレーションプログラムPLUS（KGAP+）」を構築し、WITH・POSTコロナ社会におけるイノベーション創出に挑戦するスタートアップを支援する取組を実施

▶ 令和2年7月、世界に伍するスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市に選定

▶ 本都市の文化学術研究交流施設である「けいはんなプラザ」内にスタートアップルーム（10室）及び商談ルームを整備。ビジネスマッチングサイトも開設